

# 松下幸之助に学ぶ!!

文・全国PHP友の会

会友 梶浦 洋一

『故きを温ねて新しきを知る』

第四回

(徳島PHP友の会顧問)  
(H/PPHAG &  
『葉根譚の会』世話人)

最近、複数の政府、与党関係者からの情報として、安倍首相は、夏の参院選に合わせて衆院選を実施する『衆参同日選』の可否を検討し、5月に判断する意向を固めた模様とのこと。

また、来年4月に予定する消費税率10%への増税先送りも視野に入れて、世界経済情勢を見極めつつ5月下旬の『伊勢志摩サミット』前後に結論を出すようとしている模様だという話。



真の繁栄・平和・幸福  
を究めるために②

さて、先月からの話に移ろう。

アチーブメント(株)を創業した青木仁志氏の話は続く。

・・・それから二八年、アチーブメントは社員数約一四〇名の会社に成長し、毎年成長を続けています。

アチーブメントが大きくなるにつれ、私の幸之助さんに対する尊敬はますます強くなっていきました。若い頃はその成功に憧れましたが、年を重ねるにつれ、世のため、人のために尽力した幸之助さんの生き方に共感を覚えるようになったのです。

今の私があるのは、社員のおかげ、お客様のおかげ、社会のおかげ、そして希望を与えてくれた幸之助さんのおかげです。

私は幸之助さんがそうされたように、このご恩を社会に返さなければいけない、と思うようになりました。年々、強くなるその思いをさまざまな形で実現させようと取り組み始めた頃、ご縁があ

ってPHP研究所の佐藤悌二郎専務取締役・経営

理念研究本部長という知己を得ることができたのです。

悌二郎さんは日本における松下幸之助研究の第一人者です。私は無理を承知でお願いし、悌二郎さんから幸之助さんの考えを教えていただくことになりました。

幸之助さんの考え方を吸収して、一歩でも幸之助さんに近づきたいと思っただけです。

この対談は三日間にわたって行われたものです。悌二郎さんからじかにうかがう幸之助さんの言葉は私の魂を震わせました。私の人生を振り返ったとき、この燃えるような三日間は間違いなく人生の大きな気付きを得たターニングポイントになるでしょう。

この本を通じて幸之助さんの哲学の真髓が少しでもわかりやすく皆さんの心に届くことを願ってやみません。

アチーブメント株式会社代表取締役社長 青木仁志

これを受けての佐藤悌二郎氏（筆者注釈）Ⅱ佐藤悌二郎氏は2011年9月～12月に徳島PHP友の会が開催した松下幸之助に学ぶ『道は無限にある』4会合シリーズセミナーの主要講師を務めて下さった方Ⅱの話は書籍の【おわりに】に次ぎのように記されている。

昭和五五年にPHP研究所に入社した私が、一週間の導入教育のうちに配属になったのは研究本部というところで、創設者松下幸之助の研究をする部署でした。爾来三五年、途中半年ほど、幸之助が日本と世界のよりよい姿を実現するために発足させた政策研究提言機構「世界を考える京都座会」の運営の手伝いをした以外は、一貫して研究本部で、幸之助の事績や経営観・人間観などの研究と、幸之助に関する書籍・テープ集などの編集・制作に携わってきました。まさかこれほどまでに松下幸之助と長く深く関わることになるうとは、当初は夢にも思ってい

ませんでした。

したがって、「はじめに」で、青木さんが私を「松下幸之助研究の第一人者」と、過分な評価をしてくださっています。三五年もやっていればそうならないほうがおかしいわけで、取り立てて誇るべきことではありません。しかし一方では、まだまだ未熟であることをほかでもない本人がいちばんよく知っていますので、そんな者を、数千人の経営者を指導し、尊敬を集めておられる青木さんが評価して、何かとお声をかけてくださるのはたいへん光栄であるとともに、とても面映ゆく、恐縮するばかりです。

青木さんとはひょんなことから知りあい、その後折々にその考えやお人柄に接してきました。そのなかで、青木さんがいかに松下幸之助を敬愛し、幸之助のものの見方・考え方をご自分の経営に生かそうとされているかということがよくわかりました。

ティー・カンパニー』の推薦文をというお話があり、私の推薦などものの役に立たないと思いましたが、ぜひにということでしたので、『現代の松下幸之助といえど、その人ではないかという確信に近づいている』という推薦の言葉を書かせていただきました。

その推薦文が新聞広告に出たとき、「ここまで言っているんですか。本当にこれ佐藤さんが書いたんですか」と、弊社の社員の何人かが言ってきました。「そんなに軽々しく松下幸之助の名前を出していいのか」というわけです。しかし、私としては、それまで青木さんからお考えや思いをうかがい、ゲラを読ませていただいて、率直にそう感じたのです。

その思いは、青木さんが、幸之助をもっと学びたいとおっしゃって始まった勉強会を通してさらに強まりました。毎月三時間、一対一

で幸之助のことについて質問を受け、お答えするなかで、さきの文言は変更する必要はないという感を深くしたので。

実際、青木さんは、社員の幸せを何よりも考えておられるところ、人を大事にし、人つくりを第一にもってこられているところ、「理念経営」を標榜し、その重要性をつとに強調されているところ、高い志、崇高な経営理念を堅持しておられるところ、決してもうこれ

でいいと思わず、学ぶ姿勢をずっともちつづけておられるところなど、その行き方・考え方が幸之助ときわめて近く、重なるところが数多くあるように思います。

このたびのハワイでの対談においても、青木さんは幸之助の志と理念の具現者であると確信することができました。そして、ここまですべて松下幸之助に私淑し、幸之助を日本の若い経営者の方々にもっと知ってもらわないといけないと率先して話題にされる青木さんのような方がおられることは、

幸之助の考えを研究し、それを世に伝え、広めることを使命としている私にとりまして、またPHP研究所、松下幸之助、さらには日本の経営者やビジネスパーソンにとりましても実によりがたく、心強いことだと、感謝せずにはいられません。

本書のタイトルにある“希望の哲学”という言葉は、私が研究本部で仕事を始めて数年たったころに、幸之助の資料を収蔵している資料室で、ある先輩の研究員がPHP社員の理念勉強会で講義した原稿の中でみつけたものです。これを目にしたとき、松下幸之助という人の思考法、PHP理念の根拠を最も的確かつ端的に表現したものに思われ、以後、拳拳服膺してききました。今回の書籍化にあたってタイトルをどうするか青木さんと話してあったときに、この言葉を紹介したところ、これがいい、となった次第です。

（つづく）